

# 中間連結財務諸表

金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当社の(中間)連結貸借対照表、(中間)連結損益計算書、(中間)連結株主資本等変動計算書及び(中間)連結キャッシュ・フロー計算書については、あずさ監査法人の監査証明を受けております。

## 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	平成19年度中間期末 平成19年9月30日現在	平成20年度中間期末 平成20年9月30日現在	平成19年度末 平成20年3月31日現在
<b>(資産の部)</b>			
現金預け金	5,944,160	5,791,259 <sup>※8</sup>	5,017,325
コールローン及び買入手形	1,383,235	785,543	595,802
買現先勘定	371,109	11,555	357,075
債券貸借取引支払保証金	1,064,257	394,967	1,940,170
買入金銭債権	1,102,863	1,149,942 <sup>※8</sup>	1,153,070
特定取引資産	3,491,395	3,850,732 <sup>※8</sup>	4,123,611
金銭の信託	2,627	8,983	7,329
有価証券	20,599,844	21,795,888 <sup>※1,2,8,14</sup>	23,517,501
貸出金	60,193,566	63,477,758 <sup>※3,4,5,6,7,8,9</sup>	62,144,874
外国為替	926,162	1,125,449 <sup>※7</sup>	893,567
リース債権及びリース投資資産	—	2,039,354 <sup>※8</sup>	—
その他資産	3,900,851	4,071,695 <sup>※8</sup>	4,951,587
有形固定資産	819,772	988,508 <sup>※8,10,11</sup>	820,411
無形固定資産	232,682	361,608	332,525
リース資産	1,014,350	—	1,425,097
繰延税金資産	915,876	1,033,015	985,528
支払承諾見返	4,895,451	5,047,411	4,585,141
貸倒引当金	△930,577	△899,914	△894,702
<b>資産の部合計</b>	<b>105,927,629</b>	<b>111,033,760</b>	<b>111,955,918</b>

(単位：百万円)

科目	平成19年度中間期末 平成19年9月30日現在	平成20年度中間期末 平成20年9月30日現在	平成19年度末 平成20年3月31日現在
<b>(負債の部)</b>			
預金	72,925,766	73,583,098 ※8	72,690,624
譲渡性預金	2,528,292	3,254,678	3,078,149
コールマネー及び売渡手形	2,191,690	2,263,875 ※8	2,638,142
売現先勘定	143,980	995,644 ※8	1,832,467
債券貸借取引受入担保金	2,747,480	4,029,144 ※8	5,732,042
特定取引負債	2,165,097	2,301,836 ※8	2,671,316
借入金	4,395,401	4,343,253 ※8, 12	4,279,034
外国為替	341,203	325,254	301,123
短期社債	438,300	792,000	769,100
社債	4,030,059	3,836,959 ※13	3,969,308
信託勘定借	45,893	106,932	80,796
その他負債	3,622,023	4,737,517 ※8	3,916,427
賞与引当金	25,754	28,427	29,267
役員賞与引当金	—	—	1,171
退職給付引当金	37,594	37,270	38,701
役員退職慰勞引当金	6,995	7,419	7,998
預金払戻引当金	11,716	7,818	10,417
特別法上の引当金	1,137	432	1,118
繰延税金負債	55,589	29,818	52,046
再評価に係る繰延税金負債	49,347	47,218 ※10	47,446
支払承諾	4,895,451	5,047,411 ※8	4,585,141
<b>負債の部合計</b>	<b>100,658,776</b>	<b>105,776,012</b>	<b>106,731,842</b>
<b>(純資産の部)</b>			
資本金	1,420,877	1,420,877	1,420,877
資本剰余金	57,869	57,759	57,826
利益剰余金	1,491,378	1,761,220	1,740,610
自己株式	△ 123,855	△ 124,240	△ 123,989
株主資本合計	2,846,269	3,115,616	3,095,324
その他有価証券評価差額金	1,065,875	463,137	550,648
繰延ヘッジ損益	△ 93,158	△ 114,154	△ 75,233
土地再評価差額金	37,339	35,052 ※10	34,910
為替換算調整勘定	△ 8,428	△ 57,108	△ 27,323
評価・換算差額等合計	1,001,628	326,926	483,002
新株予約権	27	56	43
少数株主持分	1,420,928	1,815,148	1,645,705
<b>純資産の部合計</b>	<b>5,268,853</b>	<b>5,257,748</b>	<b>5,224,076</b>
<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>105,927,629</b>	<b>111,033,760</b>	<b>111,955,918</b>

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	平成19年度中間期 自平成19年4月1日 至平成19年9月30日	平成20年度中間期 自平成20年4月1日 至平成20年9月30日	平成19年度 自平成19年4月1日 至平成20年3月31日
<b>経常収益</b>	<b>2,077,552</b>	<b>1,817,108</b>	<b>4,623,545</b>
資金運用収益	1,082,577	1,116,721	2,145,451
(うち貸出金利息)	(771,407)	(798,557)	(1,557,823)
(うち有価証券利息配当金)	(167,526)	(182,855)	(333,255)
信託報酬	2,262	1,268	3,752
役務取引等収益	346,671	345,903	704,283
特定取引収益	118,362	13,458	469,571
その他業務収益	488,686	327,158	1,212,635
その他経常収益	38,991	12,598 <sup>※1</sup>	87,850
<b>経常費用</b>	<b>1,724,314</b>	<b>1,626,145</b>	<b>3,792,384</b>
資金調達費用	483,002	438,206	935,067
(うち預金利息)	(276,767)	(202,906)	(495,690)
役務取引等費用	53,232	61,903	92,289
特定取引費用	—	13,800	—
その他業務費用	479,774	222,468	1,392,089
営業経費	477,357	538,960	978,896
その他経常費用	230,947	350,806 <sup>※2</sup>	394,041
<b>経常利益</b>	<b>353,237</b>	<b>190,962</b>	<b>831,160</b>
特別利益	1,549	2,523 <sup>※3</sup>	115,495
特別損失	4,453	2,930 <sup>※4,5</sup>	17,700
<b>税金等調整前中間(当期)純利益</b>	<b>350,334</b>	<b>190,555</b>	<b>928,955</b>
法人税、住民税及び事業税	53,951	46,433	103,900
法人税等調整額	89,270	15,790	282,538
法人税等合計		62,223	
少数株主利益	36,519	45,051	80,980
<b>中間(当期)純利益</b>	<b>170,592</b>	<b>83,281</b>	<b>461,536</b>

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

	平成19年度中間期 自平成19年4月1日 至平成19年9月30日	平成20年度中間期 自平成20年4月1日 至平成20年9月30日	平成19年度 自平成19年4月1日 至平成20年3月31日
株主資本			
資本金			
前期末残高	1,420,877	1,420,877	1,420,877
当中間期(当期)変動額	—	—	—
当中間期(当期)変動額合計	—	—	—
当(中間)期末残高	1,420,877	1,420,877	1,420,877
資本剰余金			
前期末残高	57,773	57,826	57,773
当中間期(当期)変動額			
自己株式の処分	96	△67	53
当中間期(当期)変動額合計	96	△67	53
当(中間)期末残高	57,869	57,759	57,826
利益剰余金			
前期末残高	1,386,436	1,740,610	1,386,436
在外子会社の会計処理変更に伴う期首利益剰余金減少額	—	△3,132	—
当中間期(当期)変動額			
剰余金の配当	△65,911	△59,431	△110,215
中間(当期)純利益	170,592	83,281	461,536
連結子会社の増加に伴う増加	1	2	268
連結子会社の減少に伴う増加	4	6	7
連結子会社の増加に伴う減少	△6	△7	△100
連結子会社の減少に伴う減少	△3	△0	△3
土地再評価差額金の取崩	263	△108	2,681
当中間期(当期)変動額合計	104,941	23,742	354,173
当(中間)期末残高	1,491,378	1,761,220	1,740,610
自己株式			
前期末残高	△123,454	△123,989	△123,454
当中間期(当期)変動額			
自己株式の取得	△641	△423	△901
自己株式の処分	240	172	367
当中間期(当期)変動額合計	△400	△251	△534
当(中間)期末残高	△123,855	△124,240	△123,989
株主資本合計			
前期末残高	2,741,632	3,095,324	2,741,632
在外子会社の会計処理変更に伴う期首利益剰余金減少額	—	△3,132	—
当中間期(当期)変動額			
剰余金の配当	△65,911	△59,431	△110,215
中間(当期)純利益	170,592	83,281	461,536
自己株式の取得	△641	△423	△901
自己株式の処分	337	105	420
連結子会社の増加に伴う増加	1	2	268
連結子会社の減少に伴う増加	4	6	7
連結子会社の増加に伴う減少	△6	△7	△100
連結子会社の減少に伴う減少	△3	△0	△3
土地再評価差額金の取崩	263	△108	2,681
当中間期(当期)変動額合計	104,636	23,424	353,692
当(中間)期末残高	2,846,269	3,115,616	3,095,324

(次ページに続く)

(中間連結株主資本等変動計算書続き)

(単位：百万円)

	平成19年度中間期 自平成19年4月1日 至平成19年9月30日	平成20年度中間期 自平成20年4月1日 至平成20年9月30日	平成19年度 自平成19年4月1日 至平成20年3月31日
評価・換算差額等			
その他有価証券評価差額金			
前期末残高	1,262,135	550,648	1,262,135
当中間期(当期)変動額			
株主資本以外の項目の当中間期(当期)変動額(純額)	△196,259	△87,511	△711,486
当中間期(当期)変動額合計	△196,259	△87,511	△711,486
当(中間)期末残高	1,065,875	463,137	550,648
繰延ヘッジ損益			
前期末残高	△87,729	△75,233	△87,729
当中間期(当期)変動額			
株主資本以外の項目の当中間期(当期)変動額(純額)	△5,428	△38,921	12,495
当中間期(当期)変動額合計	△5,428	△38,921	12,495
当(中間)期末残高	△93,158	△114,154	△75,233
土地再評価差額金			
前期末残高	37,605	34,910	37,605
当中間期(当期)変動額			
株主資本以外の項目の当中間期(当期)変動額(純額)	△265	141	△2,694
当中間期(当期)変動額合計	△265	141	△2,694
当(中間)期末残高	37,339	35,052	34,910
為替換算調整勘定			
前期末残高	△30,656	△27,323	△30,656
当中間期(当期)変動額			
株主資本以外の項目の当中間期(当期)変動額(純額)	22,228	△29,784	3,333
当中間期(当期)変動額合計	22,228	△29,784	3,333
当(中間)期末残高	△8,428	△57,108	△27,323
評価・換算差額等合計			
前期末残高	1,181,353	483,002	1,181,353
当中間期(当期)変動額			
株主資本以外の項目の当中間期(当期)変動額(純額)	△179,725	△156,075	△698,351
当中間期(当期)変動額合計	△179,725	△156,075	△698,351
当(中間)期末残高	1,001,628	326,926	483,002
新株予約権			
前期末残高	14	43	14
当中間期(当期)変動額			
株主資本以外の項目の当中間期(当期)変動額(純額)	12	12	29
当中間期(当期)変動額合計	12	12	29
当(中間)期末残高	27	56	43
少数株主持分			
前期末残高	1,408,279	1,645,705	1,408,279
当中間期(当期)変動額			
株主資本以外の項目の当中間期(当期)変動額(純額)	12,649	169,442	237,426
当中間期(当期)変動額合計	12,649	169,442	237,426
当(中間)期末残高	1,420,928	1,815,148	1,645,705

(単位：百万円)

	平成19年度中間期 自平成19年4月1日 至平成19年9月30日	平成20年度中間期 自平成20年4月1日 至平成20年9月30日	平成19年度 自平成19年4月1日 至平成20年3月31日
純資産合計			
前期末残高	5,331,279	5,224,076	5,331,279
在外子会社の会計処理変更に伴う期首利益剰余金減少額	—	△3,132	—
当中間期(当期)変動額			
剰余金の配当	△65,911	△59,431	△110,215
中間(当期)純利益	170,592	83,281	461,536
自己株式の取得	△641	△423	△901
自己株式の処分	337	105	420
連結子会社の増加に伴う増加	1	2	268
連結子会社の減少に伴う増加	4	6	7
連結子会社の増加に伴う減少	△6	△7	△100
連結子会社の減少に伴う減少	△3	△0	△3
土地再評価差額金の取崩	263	△108	2,681
株主資本以外の項目の当中間期(当期)変動額(純額)	△167,063	13,379	△460,895
当中間期(当期)変動額合計	△62,426	36,804	△107,203
当(中間)期末残高	5,268,853	5,257,748	5,224,076

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

区分	平成19年度中間期 自平成19年4月1日 至平成19年9月30日	平成20年度中間期 自平成20年4月1日 至平成20年9月30日	平成19年度 自平成19年4月1日 至平成20年3月31日
<b>I 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>			
税金等調整前中間(当期)純利益	350,334	190,555	928,955
減価償却費	—	58,235	—
固定資産減価償却費	39,470	—	83,346
リース資産減価償却費	170,242	—	403,775
減損損失	3,205	1,331	5,161
のれん償却額	4,182	6,285	10,520
持分法による投資損益(△は益)	△19,030	6,138	41,760
子会社株式売却損益及び 子会社の増資に伴う持分変動損益(△)	106	—	106
貸倒引当金の増減額(△は減少)	13,038	6,043	△26,197
賞与引当金の増減額(△は減少)	△2,603	△169	1,289
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	—	△1,171	1,146
退職給付引当金の増減額(△は減少)	412	529	2,178
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△444	△528	295
預金払戻引当金の増減額(△は減少)	11,716	△2,598	10,417
資金運用収益	△1,082,577	△1,116,721	△2,145,451
資金調達費用	483,002	438,206	935,067
有価証券関係損益(△)	49,784	22,916	29,146
金銭の信託の運用損益(△は運用益)	△245	△73	△227
為替差損益(△は益)	36,271	79,578	355,913
固定資産処分損益(△は益)	84	686	1,550
リース資産処分損益(△は益)	△1,987	—	△2,436
特定取引資産の純増(△)減	△198,303	235,921	△864,864
特定取引負債の純増減(△)	206,229	△335,661	747,776
貸出金の純増(△)減	△1,564,926	△1,614,687	△3,372,601
預金の純増減(△)	818,665	863,036	776,786
譲渡性預金の純増減(△)	△62,963	174,126	497,697
借入金(劣後特約付借入金を除く)の純増減(△)	859,543	63,808	333,136
有利利息預け金の純増(△)減	△1,379,961	131,845	△241,409
コールローン等の純増(△)減	△694,085	160,603	34,765
債券貸借取引支払保証金の純増(△)減	1,212,637	1,545,202	336,724
コールマネー等の純増減(△)	△95,414	△1,209,619	2,044,633
債券貸借取引受入担保金の純増減(△)	1,231,137	△1,702,897	4,215,699
外国為替(資産)の純増(△)減	△43,849	△230,208	△14,713
外国為替(負債)の純増減(△)	16,960	24,004	△22,916
リース債権及びリース投資資産の純増(△)減	—	△218	—
短期社債(負債)の純増減(△)	△1,300	16,900	42,500
普通社債発行及び償還による増減(△)	△135,716	△95,369	△220,801
信託勘定借の純増減(△)	△19,169	26,136	15,733
資金運用による収入	1,070,519	1,124,780	2,146,724
資金調達による支出	△454,539	△424,919	△924,191
その他	410,817	△32,672	△326,054
小計	1,231,246	△1,590,644	5,840,942
法人税等の支払額	6,590	△39,584	△58,353
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,237,836</b>	<b>△1,630,228</b>	<b>5,782,588</b>

(単位：百万円)

区分	平成19年度中間期 自平成19年4月1日 至平成19年9月30日	平成20年度中間期 自平成20年4月1日 至平成20年9月30日	平成19年度 自平成19年4月1日 至平成20年3月31日
<b>II 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>			
有価証券の取得による支出	△ 17,909,744	△ 21,349,839	△ 50,073,494
有価証券の売却による収入	10,576,473	16,455,015	35,014,774
有価証券の償還による収入	6,891,933	7,584,824	10,504,800
金銭の信託の増加による支出	△ 547	△ 1,778	△ 5,378
金銭の信託の減少による収入	796	0	796
有形固定資産の取得による支出	△ 24,122	△ 100,698	△ 71,301
有形固定資産の売却による収入	2,059	8,389	16,592
無形固定資産の取得による支出	△ 23,015	△ 38,625	△ 64,918
無形固定資産の売却による収入	20	31	252
リース資産の取得による支出	△ 200,317	—	△ 457,070
リース資産の売却による収入	21,044	—	51,141
子会社株式の取得による支出	—	△ 21,925	—
子会社株式の売却による収入	198	363	198
子会社の自己株式の取得による支出	—	△ 20,000	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△ 3,453	△ 6,352	△ 2,951
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	—	1,725	—
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 668,677</b>	<b>2,511,133</b>	<b>△ 5,086,559</b>
<b>III 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>			
劣後特約付借入れによる収入	25,000	—	40,000
劣後特約付借入金の返済による支出	△ 63,000	△ 20,500	△ 76,000
劣後特約付社債及び新株予約権付社債の発行による収入	90,000	149,600	214,000
劣後特約付社債及び新株予約権付社債の償還による支出	△ 19,700	△ 180,885	△ 47,000
配当金の支払額	△ 65,837	△ 59,396	△ 110,099
少数株主からの払込みによる収入	3,425	376,319	141,500
少数株主への払戻しによる支出	—	△ 186,534	—
少数株主への配当金の支払額	△ 33,704	△ 49,990	△ 60,239
自己株式の取得による支出	△ 641	△ 423	△ 901
自己株式の処分による収入	770	105	853
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 63,688</b>	<b>28,294</b>	<b>102,112</b>
<b>IV 現金及び現金同等物に係る換算差額</b>	<b>1,082</b>	<b>△ 2,936</b>	<b>△ 8,465</b>
<b>V 現金及び現金同等物の増減額(△は減少)</b>	<b>506,553</b>	<b>906,261</b>	<b>789,676</b>
<b>VI 現金及び現金同等物の期首残高</b>	<b>1,927,024</b>	<b>2,736,752</b>	<b>1,927,024</b>
VII 連結子会社の合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	—	1,183
VIII 新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	18,869	0	18,870
IX 連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	—	—	△ 3
<b>X 現金及び現金同等物の(中間)期末残高</b>	<b>2,452,448</b>	<b>3,643,014</b> ※1	<b>2,736,752</b>

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 1. 連結の範囲に関する事項

### (1) 連結子会社 282社

主要な会社名  
株式会社三井住友銀行  
株式会社みなと銀行  
株式会社関西アーバン銀行  
Sumitomo Mitsui Banking Corporation Europe Limited  
Manufacturers Bank  
三井住友ファイナンス&リース株式会社  
三井住友カード株式会社  
株式会社クオーク  
SMBCファイナンスサービス株式会社  
SMBCフレンド証券株式会社  
株式会社日本総合研究所  
SMBC Capital Markets, Inc.

なお、プライマス・ファイナンシャル・サービス株式会社他26社は株式取得等により、当中間連結会計期間より連結子会社としております。

さくら情報システム株式会社他4社は株式売却に伴う議決権の所有割合の低下等により、当中間連結会計期間より連結子会社から除外しております。

また、エスエムエフエル・フォーマルハウト有限会社他7社は匿名組合方式による賃貸事業を行う営業者となったため、当中間連結会計期間より連結子会社から除外し、持分法非適用の非連結子会社としております。

### (2) 非連結子会社

主要な会社名  
SBCS Co., Ltd.  
子会社エスエムエルシー・マホガニー有限会社他234社は、匿名組合方式による賃貸事業を行う営業者であり、その資産及び損益は実質的に当該子会社に帰属しないものであるため、中間連結財務諸表規則第5条第1項ただし書第2号により、連結の範囲から除外しております。

また、その他の非連結子会社の総資産、経常収益、中間純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等のそれぞれの合計額は、連結の範囲から除いても企業集団の財政状態及び経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものであります。

## 2. 持分法の適用に関する事項

### (1) 持分法適用の非連結子会社 3社

主要な会社名  
SBCS Co., Ltd.

### (2) 持分法適用の関連会社 73社

主要な会社名  
Vietnam Export Import Commercial Joint Stock Bank  
住友三井オートサービス株式会社  
プロミス株式会社  
株式会社セントラルファイナンス  
株式会社オーエムシーカード  
大和証券エスエムビーシー株式会社  
エヌ・アイ・エフSMBCベンチャーズ株式会社  
大和住銀投信投資顧問株式会社  
三井住友アセットマネジメント株式会社

Vietnam Export Import Commercial Joint Stock Bankは株式取得により、当中間連結会計期間より持分法適用の関連会社としております。

さくら情報システム株式会社他2社は株式売却に伴う議決権の所有割合の低下により、当中間連結会計期間より連結子会社から除外し、持分法適用の関連会社としております。

また、ジャパン・ペンション・ナビゲーター株式会社は議決権の所有割合の増加により連結子会社となったため、株式会社エフバランスは清算により関連会社でなくなったため、当中間連結会計期間より持分法適用の関連会社から除外しております。

### (3) 持分法非適用の非連結子会社

子会社エスエムエルシー・マホガニー有限会社他234社は、匿名組合方式による賃貸事業を行う営業者であり、その資産及び損益は実質的に当該子会社に帰属しないものであるため、中間連結財務諸表規則第7条第1項ただし書第2号により、持分法非適用にしております。

### (4) 持分法非適用の関連会社

主要な会社名  
Daiwa SB Investments (USA) Ltd.  
持分法非適用の関連会社の中間純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等のそれぞれの合計額は、持分法適用の対象から除いても企業集団の財政状態及び経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものであります。

## 3. 連結子会社の中間決算日等に関する事項

### (1) 連結子会社の中間決算日は次のとおりであります。

11月末日	1社
12月末日	6社
1月末日	2社
3月末日	8社
4月末日	2社
5月末日	3社
6月末日	123社
7月末日	13社
8月末日	8社
9月末日	116社

(2) 12月末日を中間決算日とする連結子会社は6月末日及び9月末日現在、11月末日、1月末日、3月末日、5月末日及び7月末日を中間決算日とする連結子会社は9月末日現在、4月末日を中間決算日とする連結子会社については7月末日及び9月末日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表により、また、その他の連結子会社については、それぞれの中間決算日の財務諸表により連結しております。中間連結決算日と上記の中間決算日等との間に生じた重要な取引については、必要な調整を行っております。

## 4. 開示対象特別目的会社に関する事項

### (1) 開示対象特別目的会社の概要及び開示対象特別目的会社を利用した取引の概要

当社の連結子会社である三井住友銀行は、顧客から売掛債権の金銭債権買取業務等を行う特別目的会社(ケイマン法人及び有限責任中間法人等の形態によっております。)14社に係る借入及びコマースナル・ペーパーでの資金調達に関し、貸出金、信用枠及び流動性枠を供与しております。

特別目的会社14社の直近の決算日における資産総額(単純合算)は、3,156,882百万円、負債総額(単純合算)は3,157,122百万円であります。なお、いずれの特別目的会社についても、三井住友銀行は議決権のある株式等は有しておらず、役員や従業員の派遣もありません。

### (2) 当中間連結会計期間における開示対象特別目的会社との取引金額等(単位:百万円)

	主な取引の当中間連結会計期間末残高 平成20年9月30日現在	主な損益 自平成20年4月1日 至平成20年9月30日	
		項目	金額
貸出金	2,108,937	貸出金利息	12,532
信用枠	762,145	役務取引等収益	1,049
流動性枠	494,198	—	—

## 5. 会計処理基準に関する事項

### (1) 特定取引資産・負債の評価基準及び収益・費用の計上基準

金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る短期的な変動、市場間の格差等を利用して利益を得る等の目的(以下、「特定取引目的」という。)の取引については、取引の約定時点を基準とし、中間連結貸借対照表上「特定取引資産」及び「特定取引負債」に計上するとともに、当該取引からの損益を中間連結損益計

算書上「特定取引収益」及び「特定取引費用」に計上しております。特定取引資産及び特定取引負債の評価は、有価証券及び金銭債権等については中間連結決算日等の時価により、スワップ・先物・オプション取引等の派生商品については中間連結決算日等において決済したものとみなした額により行っております。

また、特定取引収益及び特定取引費用の損益計上は、当中間連結会計期間中の受払利息等に、有価証券、金銭債権等については前連結会計年度末と当中間連結会計期間末における評価損益の増減額を、派生商品については前連結会計年度末と当中間連結会計期間末におけるみなし決済からの損益相当額の増減額を加えております。

## (2) 有価証券の評価基準及び評価方法

①有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、持分法非適用の非連結子会社株式及び持分法非適用の関連会社株式については移動平均法による原価法、その他有価証券で時価のあるものうち株式については中間連結決算日前1カ月の市場価格の平均等、それ以外については中間連結決算日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は主として移動平均法により算定)、時価のないものについては移動平均法による原価法又は償却原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

②金銭の信託において信託財産を構成している有価証券の評価は、上記(1)及び(2)①と同じ方法により行っております。

## (3) デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引(特定取引目的の取引を除く。)の評価は、時価法により行っております。

## (4) 減価償却の方法

### ①有形固定資産(リース資産を除く)

当社及び連結子会社である三井住友銀行の有形固定資産は、定額法(ただし、建物以外については定率法)を採用し、年間減価償却費見積額を期間により按分し計上しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	7年～50年
その他	2年～20年

その他の連結子会社の有形固定資産については、資産の見積耐用年数に基づき、主として定額法により償却しております。

### ②無形固定資産

無形固定資産は、定額法により償却しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、当社及び国内連結子会社における利用可能期間(主として5年)に基づいて償却しております。

### ③リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

## (5) 貸倒引当金の計上基準

主要な連結子会社の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等、法的に経営破綻の事実が発生している債務者(以下、「破綻先」という。)に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者(以下、「実質破綻先」という。)に係る債権については、下記直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者(以下、「破綻懸念先」という。)に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。

なお、連結子会社である三井住友銀行においては、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる破綻懸念先に係る債権及び債権の全部又は一部が3カ月以上延滞債権又は貸出条件緩和債権に分類された今後の管理に注意を要する債務者に対する債権のうち与信額一定額以上の大口債務者に係る債権等については、キャッシュ・フロー見積法(DCF法)を適用し、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もり、当該キャッシュ・フローを当初の約定

利率で割引いた金額と債権の帳簿価額との差額を計上しております。

上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績等から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。特定海外債権については、対象国の政治経済情勢等を勘案して必要と認められる金額を特定海外債権引当金として計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業部と所管審査部が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。

その他の連結子会社の貸倒引当金は、一般債権については過去の貸倒実績率等を勘案して必要と認められた額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額をそれぞれ計上しております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を収立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は639,385百万円であります。

## (6) 賞与引当金の計上基準

賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当中間連結会計期間に帰属する額を計上しております。

## (7) 退職給付引当金の計上基準

退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間連結会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。また、過去勤務債務及び数理計算上の差異の損益処理方法は以下のとおりであります。

過去勤務債務：

その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(主として9年)による定額法により損益処理

数理計算上の差異：

各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(主として9年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日連結会計年度から損益処理

## (8) 役員退職慰労引当金の計上基準

役員退職慰労引当金は、役員(執行役員を含む。)に対する退職慰労金の支払いに備えるため、内規に基づく当中間連結会計期間末の要支給額を計上しております。

## (9) 預金払戻引当金の計上基準

預金払戻引当金は、一定の条件を満たし負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、過去の払戻実績に基づく将来の払戻損失見込額を計上しております。

## (10) 特別法上の引当金の計上基準

特別法上の引当金は、金融商品取引責任準備金であり、有価証券の売買その他の取引又はデリバティブ取引等に関して生じた事故による損失の補てんに充てるため、金融商品取引法第46条の5及び第48条の3の規定に基づき計上しております。

## (11) 外貨建資産・負債の換算基準

当社及び連結子会社である三井住友銀行の外貨建資産・負債及び海外支店勘定については、取得時の為替相場による円換算額を付す子会社株式及び関連会社株式を除き、主として中間連結決算日の為替相場による円換算額を付しております。

また、その他の連結子会社の外貨建資産・負債については、それぞれの中間決算日等の為替相場により換算しております。

## (12) リース取引等に関する収益及び費用の計上基準

### ①ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準

受取利息相当額を収益として各期に配分する方法によっております。

### ②オペレーティング・リース取引の収益の計上基準

主に、リース期間に基づくリース契約上の収受すべき月当たりのリース料を基準として、その経過期間に対応するリース料を計上しております。

### ③割賦販売取引の売上高及び売上原価の計上方法

主に、割賦契約による支払期日を基準として当該経過期間に対応する割賦売上高及び割賦原価を計上しております。

## (13) 重要なヘッジ会計の方法

## ・金利リスク・ヘッジ

連結子会社である三井住友銀行は、金融資産・負債から生じる金利リスクのヘッジ取引に対するヘッジ会計の方法として、繰延ヘッジを適用しております。

小口多数の金銭債権債務に対する包括ヘッジについては、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号。以下、「業種別監査委員会報告第24号」という。)に規定する繰延ヘッジを適用しております。

相場変動を相殺する包括ヘッジの場合には、ヘッジ対象となる預金・貸出金等とヘッジ手段である金利スワップ取引等を残存期間ごとにグルーピングのうえ有効性の評価をしております。また、キャッシュ・フローを固定する包括ヘッジの場合には、ヘッジ対象とヘッジ手段の金利変動要素の相関関係の検証により有効性の評価をしております。

個別ヘッジについても、当該個別ヘッジに係る有効性の評価をしております。

また、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第15号)を適用して実施してまいりました多数の貸出金・預金等から生じる金利リスクをデリバティブ取引を用いて総体で管理する従来の「マクロヘッジ」に基づく繰延ヘッジ損益のうち、業種別監査委員会報告第24号の適用に伴いヘッジ会計を中止又は時価ヘッジに移行したヘッジ手段に係る金額については、個々のヘッジ手段の金利計算期間に応じ、平成15年度から最長12年間にわたって資金調達費用又は資金運用収益として期間配分しております。なお、当中間連結会計期間末における「マクロヘッジ」に基づく繰延ヘッジ損失の総額は11,131百万円(税効果額控除前)、繰延ヘッジ利益の総額は8,832百万円(同前)であります。

## ・為替変動リスク・ヘッジ

連結子会社である三井住友銀行は、異なる通貨での資金調達・運用を動機として行われる通貨スワップ取引及び為替スワップ取引について、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号。以下、「業種別監査委員会報告第25号」という。)に基づく繰延ヘッジを適用しております。

これは、異なる通貨での資金調達・運用に伴う外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引について、その外貨ポジションに見合う外貨建金銭債権債務等が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価するものであります。

また、外貨建子会社株式及び関連会社株式並びに外貨建その他有価証券(債券以外)の為替変動リスクをヘッジするため、事前にヘッジ対象となる外貨建有価証券の銘柄を特定し、当該外貨建有価証券について外貨ベースで取得原価以上の直先負債が存在していること等を条件に、包括ヘッジとして繰延ヘッジ又は時価ヘッジを適用しております。

## ・連結会社間取引等

デリバティブ取引のうち連結会社間及び特定取引勘定とそれ以外の勘定との間(又は内部部門間)の内部取引については、ヘッジ手段として指定している金利スワップ取引及び通貨スワップ取引等に対して、業種別監査委員会報告第24号及び同第25号に基づき、恣意性を排除し厳格なヘッジ運営が可能と認められる対外カバー取引の基準に準拠した運営を行っているため、当該金利スワップ取引及び通貨スワップ取引等から生じる収益及び費用は消去せずに損益認識又は繰延処理を行っております。

なお、三井住友銀行以外の一部の連結子会社において、繰延ヘッジ会計又は「金利スワップの特例処理」を適用しております。また、国内リース連結子会社において、部分的に「リース業における金融商品会計基準適用に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第19号)に定められた処理を行っております。

## (14) 消費税等の会計処理

当社及び国内連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

## (15) 税効果会計に関する事項

中間連結会計期間に係る納付税額及び法人税等調整額は、当社及び国内連結子会社の決算期において予定している剰余金の処分による海外投資等損失準備金の積立て及び取崩しを前提として、当中間連結会計期間に係る金額を計算しております。

## 6. のれん及び負ののれんの償却に関する事項

SMBCフレンド証券株式会社及び三井住友ファイナンス&リース株式会社に係るのれんは20年間の均等償却、その他については発生年度に全額償却しております。

## 7. 中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、現金及び無利息預け金であります。

## 【中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更】

## (連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い)

「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第18号 平成18年5月17日)が平成20年4月1日以後開始する連結会計年度から適用されることになったことに伴い、当中間連結会計期間から同実務対応報告を適用しております。これにより、従来の方法に比べ、期首における利益剰余金が3,132百万円減少しております。また、当中間連結会計期間の損益に与える影響は軽微であります。

## (リース取引に関する会計基準)

所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号 平成19年3月30日)及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号 平成19年3月30日)が平成20年4月1日以後開始する連結会計年度から適用されることになったことに伴い、当中間連結会計期間から同会計基準及び適用指針を適用しております。

なお、リース取引開始日が平成20年4月1日以前に開始する連結会計年度に属する所有権移転外ファイナンス・リース取引につきましては、借手側は平成19年連結会計年度末日における未経過リース料期末残高相当額(利息相当額控除後)を取得価額とし、期首に取得したもとして「有形固定資産」及び「無形固定資産」に計上しております。また、貸手側は平成19年連結会計年度末日におけるリース資産の適正な帳簿価額(減価償却累計額控除後)を「リース債権及びリース投資資産」の期首の価額として計上しております。

これにより、従来の方法に比べ、「リース債権及びリース投資資産」が2,039,354百万円、「有形固定資産」が2,427百万円、「無形固定資産」が460百万円増加し、「貸出金」が167,292百万円、「リース資産」が1,268,233百万円、「その他資産」が673,062百万円、「その他負債」が66,963百万円減少しております。また、「資金運用収益」が34,311百万円増加し、「資金調達費用」が416百万円、「その他業務収益」が385,533百万円、「その他業務費用」が351,378百万円、「営業経費」が50百万円減少しておりますが、経常利益及び税金等調整前中間純利益に与える影響は軽微であります。上記に係るセグメント情報に与える影響はセグメント情報に記載しております。

## 【表示方法の変更】

## (中間連結貸借対照表関係)

前中間連結会計期間において、従来の「リース資産」に含めて表示しておりましたオペレーティング・リース取引の貸手側のリース資産(前中間連結会計期間末102,535百万円、当中間連結会計期間末155,357百万円)は、重要性が低下したため、当中間連結会計期間より「有形固定資産」、「無形固定資産」に含めて表示しております。

## (中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前中間連結会計期間において、営業活動によるキャッシュ・フローに区分掲記しておりました「子会社株式売却損益及び子会社の増資に伴う持分変動損益(△)」(当中間連結会計期間△167百万円)は、重要性が低下したため、当中間連結会計期間より「その他」に含めて表示しております。

**【追加情報】****(株式の分割)**

当社は、平成21年1月に予定されている「株式等の取引に係る決済の合理化を図るための社債等の振替に関する法律等の一部を改正する法律」(平成16年法律第88号。以下、「決済合理化法」という。)の施行による株券電子化に伴い、この制度の取扱い対象外とされている端株の整理を行うため、平成20年5月16日開催の取締役会において、「決済合理化法」の施行日の前日を効力発生日として、普通株式1株を100株に分割することを決議いたしました。また、平成20年6月27日開催の定時株主総会及び各種類株式に係る種類株主総会において、発行済株式総数等の増加及び普通株式の単元株式数を100株とする単元株制度の採用等を目的とした定款等の一部変更を決議いたしました。

なお、当該株式分割が前期首に行われたと仮定した場合の前中間連結会計期間及び前連結会計年度における1株当たり情報及び当期首に行われたと仮定した場合の当中間連結会計期間における1株当たり情報はそれぞれ次のとおりであります。

(単位：円)

	平成19年度中間期	平成20年度中間期	平成19年度
1株当たり純資産額	4,601.69	4,049.76	4,245.46
1株当たり中間(当期)純利益金額	216.94	100.92	592.98
潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益金額	208.41	99.64	566.57

**(その他有価証券の時価評価の一部見直し)**

有価証券のうち、その他有価証券として保有する変動利付国債については、従来中間連結決算日の市場価格をもって貸借対照表価額としておりましたが、「金融資産の時価の算定に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第25号 平成20年10月28日)を踏まえ、当中間連結会計期間から、合理的に算定された価額をもって貸借対照表価額としております。

なお、市場価格をもって貸借対照表価額とした場合に比べ、「有価証券」が153,847百万円増加、「繰延税金資産」が62,055百万円減少、「その他有価証券評価差額金」が88,504百万円、「少数株主持分」が3,287百万円増加しております。

**(子会社の企業結合関係)****クレジットカード事業会社の合併**

(1) 子会社を含む結合当事企業の名称及び事業の内容、企業結合を行う主な理由、企業結合日及び企業結合の法的形式

## ① 子会社を含む結合当事企業の名称及び事業の内容

結合企業

株式会社オーエムシーカード(事業の内容：クレジットカード業)

被結合企業

株式会社セントラルファイナンス(事業の内容：個品割賦あっせん・総合割賦あっせん業)

被結合企業

株式会社クオーク(事業の内容：個品割賦あっせん・総合割賦あっせん業)

## ② 企業結合を行う主な理由

現在クレジットカード市場は、小額決済を始めとする新たな決済領域の拡大やポイントプログラムの浸透などにより、着実な拡大を続けており、今後も公金分野の拡大などでなお一層の成長が見込まれています。一方、電子マネーなどの新技術・新サービスの開発や顧客ニーズの深耕化・高度化・多様化に対応したシステム投資、貸金業法の施行など、業界を取り巻く経営環境が劇的に変化しており、大きな転換期を迎えています。個品割賦事業についても、消費者保護強化の流れの中で割賦販売法の改正が進められており、新たなビジネスモデルの確立に向けて、事業の再構築が求められています。このような環境認識の下、株式会社セントラルファイナンス(以下、「CF」という。)、株式会社オーエムシーカード(以下、「OMCカード」という。)及び株式会社クオーク(以下、「クオーク」という。)は、各社の顧客基盤、営業力、ノウハウ等を結集・融合し、クレジットカード事業と個品割賦事業を核として、専門性と機動性に溢れたわが国最大級のコンシューマー・ファイナンス会社を実現すべく、平成20年9月29日付で、平成21年4月1日を合併期日とする3社の合併について最終的に合意し、同日開催の各社取締役会で決議の上、合併契約を締結いたしました。

## ③ 企業結合日

平成21年4月1日(予定)

## ④ 企業結合の法的形式

OMCカードを存続会社とする吸収合併方式とし、CF、クオークは解散いたします。(合併会社の商号：株式会社セディナ)

(中間連結貸借対照表関係)

- ※ 1. 有価証券には、非連結子会社及び関連会社の株式499,814百万円及び出資金5,820百万円を含んでおります。
- ※ 2. 無担保の消費貸借契約により貸し付けている有価証券が、「有価証券」中の国債及び株式に合計25,921百万円含まれております。  
無担保の消費貸借契約により借り入れている有価証券並びに現先取引及び現金担保付債券貸借取引により受け入れている有価証券のうち、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有する有価証券で、(再)担保に差し入れている有価証券は14,639百万円、当中間連結会計期間末に当該処分をせずに所有しているものは203,964百万円です。
- ※ 3. 貸出金のうち、破綻先債権額は235,546百万円、延滞債権額は771,896百万円です。  
なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下、「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。  
また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。
- ※ 4. 貸出金のうち、3カ月以上延滞債権額は41,703百万円です。  
なお、3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。
- ※ 5. 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は366,295百万円です。  
なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しないものであります。
- ※ 6. 破綻先債権額、延滞債権額、3カ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は1,415,443百万円です。  
なお、上記3.から6.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。
- ※ 7. 手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号)に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた銀行引受手形、商業手形、荷付為替手形及び買入外国為替は、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は787,594百万円です。
- ※ 8. 担保に供している資産は次のとおりです。

担保に供している資産	
現金預け金	147,466百万円
特定取引資産	177,960百万円
有価証券	7,008,995百万円
貸出金	764,979百万円
リース債権及びリース投資資産	48,613百万円
有形固定資産	11,294百万円
その他資産(延払資産等)	3,209百万円
担保資産に対応する債務	
預金	29,551百万円
コールマネー及び売渡手形	945,000百万円
売現先勘定	984,841百万円
債券貸借取引受入担保金	4,010,068百万円
特定取引負債	115,030百万円
借入金	1,570,225百万円
その他負債	16,085百万円
支払承諾	145,755百万円

上記のほか、資金決済等の取引の担保あるいは先物取引証拠金等の代用として、現金預け金14,223百万円、特定取引資産746,248百万円、有価証券3,043,177百万円、買入金銭債権2,660百万円及び貸出金1,104,955百万円を差し入れております。

また、その他資産のうち保証金は88,002百万円、先物取引差入証拠金は8,869百万円です。

- ※ 9. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸し付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は、41,026,021百万円です。このうち原契約期間が1年以内のもの又は任意の時期に無条件で取消可能なものが34,631,678百万円あります。

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている社内手続きに基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

- ※ 10. 連結子会社である三井住友銀行及びその他の一部の連結子会社は、土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)及び土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律(平成13年3月31日公布法律第19号)に基づき、事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額のうち親会社持分相当額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

また、一部の持分法適用の関連会社も同法律に基づき事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を控除した金額のうち親会社持分相当額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価を行った年月日

連結子会社である三井住友銀行

平成10年3月31日及び平成14年3月31日

その他の一部の連結子会社及び持分法適用の関連会社

平成11年3月31日、平成14年3月31日

同法律第3条第3項に定める再評価の方法

連結子会社である三井住友銀行

土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第3号に定める固定資産税評価額、同条第4号に定める路線価及び同条第5号に定める不動産鑑定士又は不動産鑑定士補による鑑定評価に基づいて、奥行価格補正、時点修正、近隣売買事例による補正等、合理的な調整を行って算出。

その他の一部の連結子会社及び持分法適用の関連会社

土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第3号に定める固定資産税評価額及び同条第5号に定める不動産鑑定士又は不動産鑑定士補による鑑定評価に基づいて算出。

- ※ 11. 有形固定資産の減価償却累計額 611,034百万円
- ※ 12. 借入金には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金503,000百万円が含まれております。
- ※ 13. 社債には、劣後特約付社債2,245,437百万円が含まれております。
- ※ 14. 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)による社債に対する保証債務の額は2,216,409百万円です。

## (中間連結損益計算書関係)

- ※ 1. その他経常収益には、株式等売却益 7,632 百万円を含んでおります。
- ※ 2. その他経常費用には、貸倒引当金繰入額 133,930 百万円、貸出金償却 153,570 百万円及び株式等償却 25,752 百万円、延滞債権等を売却したことによる損失 14,846 百万円及び持分法による投資損失 6,138 百万円を含んでおります。
- ※ 3. 特別利益は、固定資産処分益 912 百万円、償却債権取立益 924 百万円及び金融商品取引責任準備金取崩額 686 百万円であります。
- ※ 4. 特別損失は、固定資産処分損 1,599 百万円及び減損損失 1,331 百万円であります。
- ※ 5. 当中間連結会計期間において、以下の資産について、回収可能価額と帳簿価額との差額を減損損失として特別損失に計上しております。

(単位：百万円)

地域	主な用途	種類	減損損失額
首都圏	遊休資産 16 物件	土地、建物等	403
近畿圏	営業用店舗 2 力店	土地、建物等	162
	遊休資産 5 物件		578
その他	遊休資産 8 物件	土地、建物等	186

連結子会社である三井住友銀行は、継続的な収支の管理・把握を実施している各営業拠点(物理的に同一の資産を共有する拠点)をグルーピングの最小単位としております。本店、研修所、事務・システムの集中センター、福利厚生施設等の独立したキャッシュ・フローを生み出さない資産は共用資産としております。また、遊休資産については、物件ごとにグルーピングの単位としております。また、その他の連結会社については、各営業拠点をグルーピングの最小単位とする等の方法でグルーピングを行っております。

当中間連結会計期間は、三井住友銀行では遊休資産について、また、その他の連結子会社については、営業用店舗について、投資額の回収が見込まれない場合に、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。回収可能価額は、正味売却価額により算出しております。正味売却価額は、不動産鑑定評価基準に準拠した評価額から処分費用見込額を控除する等により算出しております。

## (中間連結株主資本等変動計算書関係)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位：株)

	前連結会計年度末株式数	当中間連結会計期間増加株式数	当中間連結会計期間減少株式数	当中間連結会計期間末株式数
発行済株式				
普通株式 <sup>(注)1</sup>	7,733,653.77	157,151	—	7,890,804.77
第1回第四種優先株式	4,175	—	—	4,175
第2回第四種優先株式	4,175	—	—	4,175
第3回第四種優先株式	4,175	—	—	4,175
第4回第四種優先株式	4,175	—	—	4,175
第5回第四種優先株式 <sup>(注)2</sup>	4,175	—	4,175	—
第6回第四種優先株式 <sup>(注)2</sup>	4,175	—	4,175	—
第7回第四種優先株式 <sup>(注)2</sup>	4,175	—	4,175	—
第8回第四種優先株式 <sup>(注)2</sup>	4,175	—	4,175	—
第9回第四種優先株式	4,175	—	—	4,175
第10回第四種優先株式	4,175	—	—	4,175
第11回第四種優先株式	4,175	—	—	4,175
第12回第四種優先株式	4,175	—	—	4,175
第1回第六種優先株式	70,001	—	—	70,001
合計	7,853,754.77	157,151	16,700	7,994,205.77
自己株式				
普通株式 <sup>(注)3</sup>	168,997.41	534.46	142.19	169,389.68
第5回第四種優先株式 <sup>(注)2</sup>	—	4,175	4,175	—
第6回第四種優先株式 <sup>(注)2</sup>	—	4,175	4,175	—
第7回第四種優先株式 <sup>(注)2</sup>	—	4,175	4,175	—
第8回第四種優先株式 <sup>(注)2</sup>	—	4,175	4,175	—
合計	168,997.41	17,234.46	16,842.19	169,389.68

(注) 1. 普通株式の発行済株式総数の増加 157,151 株は、平成 20 年 4 月 30 日の第 5 回第四種優先株式、第 6 回第四種優先株式、第 7 回第四種優先株式及び第 8 回第四種優先株式に係る取得請求権の行使によるものであります。

2. 第 5 回第四種優先株式、第 6 回第四種優先株式、第 7 回第四種優先株式及び第 8 回第四種優先株式の各自自己株式の増加 4,175 株は、平成 20 年 4 月 30 日に、取得請求権の行使に伴い実施した自己株式の取得によるものであります。
- また、第 5 回第四種優先株式、第 6 回第四種優先株式、第 7 回第四種優先株式及び第 8 回第四種優先株式の各発行済株式総数の減少 4,175 株及び各自自己株式の減少 4,175 株は、平成 20 年 5 月 16 日に、自己株式の消却を実施したことによるものであります。
3. 普通株式の自己株式の増加 534.46 株は、端株の買取りによる増加であります。
- また、普通株式の自己株式の減少 142.19 株は、端株の売渡しによる減少であります。

## 2. 新株予約権に関する事項

(単位：株、百万円)

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の目的となる株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数			当中間連結会計期間末残高
			前連結会計年度末	当中間連結会計期間増加	当中間連結会計期間減少	
当社	ストック・オプションとしての新株予約権	—	—	—	—	—
連結子会社	—	—	—	—	—	56
合計	—	—	—	—	—	56

## 3. 配当に関する事項

- (1) 当中間連結会計期間中の配当金支払額

株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たりの金額(円)
普通株式	53,655	7,000
第1回第四種優先株式	281	67,500
第2回第四種優先株式	281	67,500
第3回第四種優先株式	281	67,500
第4回第四種優先株式	281	67,500
第5回第四種優先株式	281	67,500
第6回第四種優先株式	281	67,500
第7回第四種優先株式	281	67,500
第8回第四種優先株式	281	67,500
第9回第四種優先株式	281	67,500
第10回第四種優先株式	281	67,500
第11回第四種優先株式	281	67,500
第12回第四種優先株式	281	67,500
第1回第六種優先株式	3,097	44,250

※決議：平成 20 年 6 月 27 日 定時株主総会

基準日：平成 20 年 3 月 31 日

効力発生日：平成 20 年 6 月 27 日

- (2) 基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間連結会計期間の末日後となるもの

株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たりの金額(円)
普通株式	54,753	7,000
第1回第四種優先株式	281	67,500
第2回第四種優先株式	281	67,500
第3回第四種優先株式	281	67,500
第4回第四種優先株式	281	67,500
第9回第四種優先株式	281	67,500
第10回第四種優先株式	281	67,500
第11回第四種優先株式	281	67,500
第12回第四種優先株式	281	67,500
第1回第六種優先株式	3,097	44,250

※決議：平成 20 年 11 月 14 日 取締役会

配当の原資：利益剰余金

基準日：平成 20 年 9 月 30 日

効力発生日：平成 20 年 12 月 5 日

**(中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)**

※ 1. 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

(単位：百万円)	
平成20年9月30日現在	
現金預け金勘定	5,791,259
有利息預け金	△ 2,148,245
現金及び現金同等物	3,643,014

**(リース取引関係)****1. ファイナンス・リース取引****(1) 借手側**

## ①リース資産の内容

## (ア)有形固定資産

主として、事務システム機器等及び店用車であります。

## (イ)無形固定資産

ソフトウェアであります。

## ②リース資産の減価償却の方法

中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 5.会計処理基準に関する事項(4)減価償却の方法に記載のとおりであります。

**(2) 貸手側**

## ①リース投資資産の内訳

(単位：百万円)	
リース料債権部分	1,538,106
見積残存価額部分	129,550
受取利息相当額	△ 295,845
合計	1,371,810

## ②リース債権及びリース投資資産に係るリース料債権部分の金額の回収予定額

(単位：百万円)		
	リース債権に係る リース料債権部分	リース投資資産に係る リース料債権部分
1年以内	226,905	468,875
1年超2年以内	175,092	338,650
2年超3年以内	145,323	246,164
3年超4年以内	80,327	164,218
4年超5年以内	56,047	115,203
5年超	62,028	204,994
合計	745,725	1,538,106

③リース取引開始日が平成20年4月1日前に開始する連結会計年度に属する所有権移転外ファイナンス・リース取引につきましては、平成19年連結会計年度末日におけるリース資産の適正な帳簿価額(減価償却累計額控除後)を「リース債権及びリース投資資産」の期首の価額として計上しております。

また、当該所有権移転外ファイナンス・リース取引の残存期間における利息相当額の各期への配分方法は、定額法によっております。

このため、当該所有権移転外ファイナンス・リース取引について通常の売買処理に係る方法に準じて会計処理を行った場合に比べ、税金等調整前中間純利益は63,104百万円少なく計上されております。

**2. オペレーティング・リース取引****(1) 借手側**

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)			
	1年内	1年超	合計
	13,290	62,944	76,235

**(2) 貸手側**

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)			
	1年内	1年超	合計
	16,941	73,581	90,522

なお、貸手側の未経過リース料のうち1,442百万円を借入金等の担保に提供しております。

**(ストック・オプション等関係)**

ストック・オプションに係る当中間連結会計期間における費用計上額及び科目名

営業経費 12百万円

**(1株当たり情報)**

(単位：円)

1株当たり純資産額	404,976.05
1株当たり中間純利益金額	10,092.43
潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額	9,964.41

(注) 1. 1株当たり中間純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

1株当たり中間純利益金額	
中間純利益	83,281百万円
普通株主に帰属しない金額	5,352百万円
(うち優先配当額)	(5,352百万円)
普通株式に係る中間純利益	77,929百万円
普通株式の中間期中平均株式数	7,721千株
潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額	
中間純利益調整額	2,144百万円
(うち優先配当額)	(2,254百万円)
(うち連結子会社及び 持分法適用関連会社の潜在株式による調整額)	(△109百万円)
普通株式増加数	314千株
(うち優先株式)	(314千株)
(うち新株予約権)	(0千株)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1株当たり中間純利益金額の算定に含めな かった潜在株式の概要	—

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

純資産の部の合計額	5,257,748百万円
純資産の部の合計額から控除する金額	2,130,760百万円
(うち優先株式)	(310,203百万円)
(うち優先配当額)	(5,352百万円)
(うち新株予約権)	(56百万円)
(うち少数株主持分)	(1,815,148百万円)
普通株式に係る中間期末の純資産額	3,126,988百万円
1株当たり純資産額の算定に用いられた 中間期末の普通株式の数	7,721千株

**(重要な後発事象)**

1. 当社は、平成20年11月19日開催の取締役会において、当社保有の海外特別目的子会社が発行した優先出資証券を償還することを承認する決議をいたしました。償還される優先出資証券の概要は次のとおりであります。

- (1) 発行体  
Sakura Preferred Capital (Cayman) Limited
- (2) 発行証券の種類  
配当非累積的永久優先出資証券
- (3) 償還総額  
① Initial Series 258,750百万円  
② Series B 25,000百万円
- (4) 償還予定日  
平成21年1月26日
- (5) 償還理由  
任意償還期日の到来による

2. 当社は、平成20年11月19日開催の取締役会において、海外特別目的子会社による優先出資証券を発行することとし、かかる優先出資証券の発行を目的とする100%出資子会社SMFG Preferred Capital JPY 2 Limitedを英国領ケイマン諸島に設立することを決議いたしました。決議された発行予定の優先出資証券の概要は次のとおりであります。

発行体	SMFG Preferred Capital JPY 2 Limited 英国領ケイマン諸島に新たに設立する、当社が 議決権を100%保有する海外特別目的子会社
証券の種類	円建配当非累積的永久優先出資証券 当社普通株式への交換権は付与されません
発行総額	未定
資金使途	本優先出資証券の発行代り金は、最終的に、当社の子銀行である株式会社三井住友銀行への永久劣後特約付貸付金として全額使用する予定
優先順位	本優先出資証券は、残余財産分配請求権において、当社が発行する優先株式と実質的に同順位
発行形態	国内私募(大和証券エスエムビーシー株式会社及び野村證券株式会社が本優先出資証券を発行価額で全額買取引受し、国内適格機関投資家等に対して取得の申込の勧誘を実施)
上場	非上場

(注) 関係法令に基づく必要な届出、許認可の効力発生を前提としております。

## 有価証券関係 (平成20年度中間期 自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)

### 有価証券の範囲等

- ※1. 中間連結貸借対照表の「有価証券」のほか、「現金預け金」中の譲渡性預け金並びに「買入金銭債権」中の貸付債権信託受益権等も含めて記載しております。
- ※2. 「子会社株式及び関連会社株式で時価のあるもの」については、中間財務諸表における注記事項として記載しております。

### (1) 満期保有目的の債券で時価のあるもの

(単位：百万円)

	平成20年9月末		
	中間連結貸借対照表計上額	時価	差額
国債	1,093,660	1,099,428	5,768
地方債	97,262	97,314	51
社債	391,896	392,709	812
その他	11,991	11,648	△343
合計	1,594,810	1,601,100	6,289

(注) 時価は、当中間連結会計期間末日における市場価格等に基づいております。

### (2) その他有価証券で時価のあるもの

(単位：百万円)

	平成20年9月末		
	取得原価	中間連結貸借対照表計上額	評価差額
株式	2,003,879	2,789,542	785,663
債券	8,360,217	8,300,703	△59,514
国債	7,459,822	7,406,470	△53,351
地方債	300,047	297,759	△2,287
社債	600,348	596,473	△3,874
その他	4,539,224	4,432,616	△106,608
合計	14,903,322	15,522,862	619,540

(注) 1. 中間連結貸借対照表計上額は、株式については主として当中間連結会計期間末前1カ月の市場価格の平均に基づいて算定された額により、また、それ以外については、当中間連結会計期間末日における市場価格等に基づく時価により、それぞれ計上したものであります。

2. その他有価証券で時価のあるもののうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落したものについては、原則として時価が取得原価まで回復する見込みがないものとみなして、当該時価をもって中間連結貸借対照表価額とし、評価差額を当中間連結会計期間の損失として処理(以下、「減損処理」という。)しております。当中間連結会計期間におけるこの減損処理額は14,308百万円であります。時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、資産の自己査定基準において、有価証券の発行会社の区分毎に次のとおり定めております。

破綻先、実質破綻先、破綻懸念先 時価が取得原価に比べて下落  
 要注意先 時価が取得原価に比べて30%以上下落  
 正常先 時価が取得原価に比べて50%以上下落

なお、破綻先とは破産、特別清算等、法的に経営破綻の事実が発生している発行会社、実質破綻先とは破綻先と同等の状況にある発行会社、破綻懸念先とは現在は経営破綻の状況にないが今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる発行会社、要注意先とは今後の管理に注意を要する発行会社であります。また、正常先とは破綻先、実質破綻先、破綻懸念先及び要注意先以外の発行会社であります。

### (3) 時価評価されていない有価証券の主な内容及び中間連結貸借対照表計上額

(単位：百万円)

	平成20年9月末
満期保有目的の債券	
非上場外国証券	7
その他	15,918
その他有価証券	
非上場株式(店頭売買株式を除く)	361,609
非上場債券	2,840,723
非上場外国証券	856,505
その他	562,950

## 有価証券関係 (平成19年度中間期 自平成19年4月1日 至平成19年9月30日)

### 有価証券の範囲

中間連結貸借対照表の「有価証券」のほか、「現金預け金」中の譲渡性預け金並びに「買入金銭債権」中の貸付債権信託受益権等も含めて記載しております。

### (1) 満期保有目的の債券で時価のあるもの

(単位：百万円)

	平成19年9月末		
	中間連結貸借 対照表計上額	時価	差額
国債	629,520	624,234	△ 5,285
地方債	97,206	95,885	△ 1,321
社債	386,456	383,881	△ 2,575
その他	5,630	5,633	2
合計	1,118,814	1,109,634	△ 9,179

(注) 時価は、当中間連結会計期間末日における市場価格等に基づいております。

### (2) その他有価証券で時価のあるもの

(単位：百万円)

	平成19年9月末		
	取得原価	中間連結貸借 対照表計上額	評価差額
株式	1,954,559	3,683,628	1,729,068
債券	7,907,468	7,744,228	△ 163,239
国債	6,742,468	6,592,972	△ 149,495
地方債	437,521	430,861	△ 6,659
社債	727,478	720,394	△ 7,083
その他	3,731,231	3,690,266	△ 40,964
合計	13,593,259	15,118,124	1,524,864

(注) 1. 中間連結貸借対照表計上額は、株式については主として当中間連結会計期間末前1カ月の市場価格の平均に基づいて算定された額により、また、それ以外については、当中間連結会計期間末日における市場価格等に基づく時価により、それぞれ計上したものであります。

2. その他有価証券で時価のあるもののうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落したものについては、原則として時価が取得原価まで回復する見込みがないものとみなして、当該時価をもって中間連結貸借対照表価額とし、評価差額を当中間連結会計期間の損失として処理(以下、「減損処理」という。)しております。当中間連結会計期間におけるこの減損処理額は69,485百万円であります。時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、資産の自己査定基準において、有価証券の発行会社の区分毎に次のとおり定めております。

破綻先、実質破綻先、破綻懸念先 時価が取得原価に比べて下落  
 要注意先 時価が取得原価に比べて30%以上下落  
 正常先 時価が取得原価に比べて50%以上下落

なお、破綻先とは破産、特別清算等、法的に経営破綻の事実が発生している発行会社、実質破綻先とは破綻先と同等の状況にある発行会社、破綻懸念先とは現在は経営破綻の状況にないが今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる発行会社、要注意先とは今後の管理に注意を要する発行会社であります。また、正常先とは破綻先、実質破綻先、破綻懸念先及び要注意先以外の発行会社であります。

### (3) 時価評価されていない有価証券の主な内容及び中間連結貸借対照表計上額

(単位：百万円)

	平成19年9月末
満期保有目的の債券	
非上場外国証券	17
その他	1,236
その他有価証券	
非上場株式(店頭売買株式を除く)	396,824
非上場債券	2,715,372
非上場外国証券	694,951
その他	628,856

**金銭の信託関係**  
(平成20年度中間期 自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)

**(1) 満期保有目的の金銭の信託**

該当ありません。

**(2) その他の金銭の信託**  
(運用目的及び満期保有目的以外の金銭の信託)

(単位：百万円)

	平成20年9月末		
	取得原価	中間連結貸借 対照表計上額	評価差額
その他の金銭の信託	7,655	7,519	△136

(注) 中間連結貸借対照表計上額は、当中間連結会計期間末日における市場価格等に基づく時価により計上したものであります。

**金銭の信託関係**  
(平成19年度中間期 自平成19年4月1日 至平成19年9月30日)

**(1) 満期保有目的の金銭の信託**

該当ありません。

**(2) その他の金銭の信託**  
(運用目的及び満期保有目的以外の金銭の信託)

(単位：百万円)

	平成19年9月末		
	取得原価	中間連結貸借 対照表計上額	評価差額
その他の金銭の信託	2,549	2,627	78

(注) 中間連結貸借対照表計上額は、当中間連結会計期間末日における市場価格等に基づく時価により計上したものであります。

**その他有価証券評価差額金**  
(平成20年度中間期 自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)

中間連結貸借対照表に計上されている「その他有価証券評価差額金」の内訳は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	平成20年9月末
評価差額	619,232
その他有価証券	619,368
その他の金銭の信託	△136
(△) 繰延税金負債	151,269
その他有価証券評価差額金(持分相当額調整前)	467,963
(△) 少数株主持分相当額	△252
(+) 持分法適用会社が所有するその他有価証券に係る評価差額金のうち親会社持分相当額	△5,078
その他有価証券評価差額金	463,137

(注) その他有価証券の評価差額は時価のない外貨建有価証券の為替換算差額(損益処理分を除く。)を含んでおります。

**その他有価証券評価差額金**  
(平成19年度中間期 自平成19年4月1日 至平成19年9月30日)

中間連結貸借対照表に計上されている「その他有価証券評価差額金」の内訳は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	平成19年9月末
評価差額	1,525,150
その他有価証券	1,525,072
その他の金銭の信託	78
(△) 繰延税金負債	461,506
その他有価証券評価差額金(持分相当額調整前)	1,063,644
(△) 少数株主持分相当額	6,982
(+) 持分法適用会社が所有するその他有価証券に係る評価差額金のうち親会社持分相当額	9,213
その他有価証券評価差額金	1,065,875

(注) その他有価証券の評価差額は時価のない外貨建有価証券の為替換算差額(損益処理分を除く。)を含んでおります。

デリバティブ取引関係 (平成20年度中間期 自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)

(1) 金利関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	平成20年9月末		
		契約額等	時価	評価損益
金融商品取引所	金利先物	63,213,718	3,435	3,435
店頭	金利先渡契約	11,523,066	△ 18	△ 18
	金利スワップ	418,530,524	130,008	130,008
	金利スワップション	6,231,878	13,301	13,301
	キャップ	49,644,165	△ 20,121	△ 20,121
	フロアー	9,326,991	△ 9,941	△ 9,941
	その他	7,016,546	50,412	50,412
合計			167,074	167,074

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。  
 なお、繰延ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

(2) 通貨関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	平成20年9月末		
		契約額等	時価	評価損益
店頭	通貨スワップ	24,995,294	△ 16,484	89,906
	通貨スワップション	1,873,120	15,803	15,803
	為替予約	61,150,375	152,903	152,903
	通貨オプション	11,003,535	19,812	19,812
合計			172,036	278,427

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。  
 なお、繰延ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引及び外貨建金銭債権債務等に付されたもので当該外貨建金銭債権債務等の中間連結貸借対照表表示に反映されているもの、又は当該外貨建金銭債権債務等が連結手続上消去されたものについては、上記記載から除いております。

(3) 株式関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	平成20年9月末		
		契約額等	時価	評価損益
金融商品取引所	株式指数先物	111,417	292	292
	株式指数オプション	7,142	△ 136	△ 136
店頭	有価証券店頭オプション	519,415	0	0
合計			155	155

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。  
 なお、繰延ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

(4) 債券関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	平成20年9月末		
		契約額等	時価	評価損益
金融商品取引所	債券先物	2,551,997	△ 13	△ 13
店頭	債券先渡契約	52,903	1,144	1,144
	債券店頭オプション	180,000	0	0
合計			1,131	1,131

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。  
 なお、繰延ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

(5) 商品関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	平成20年9月末		
		契約額等	時価	評価損益
店頭	商品スワップ	557,623	75,958	75,958
	商品オプション	53,615	3,258	3,258
合計			79,216	79,216

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。  
 なお、繰延ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。  
 2. 商品は燃料及び金属等に係るものであります。

(6) クレジットデリバティブ取引

(単位：百万円)

区分	種類	平成20年9月末		
		契約額等	時価	評価損益
店頭	クレジット・デフォルト・オプション	2,871,348	6,490	6,490
	その他	25	0	0
合計			6,490	6,490

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。  
 なお、繰延ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

(1) 金利関連取引

(単位: 百万円)

区分	種類	平成19年9月末		
		契約額等	時価	評価損益
取引所	金利先物	119,270,426	2,088	2,088
	金利オプション	111,548	0	0
店頭	金利先渡契約	4,584,433	△17	△17
	金利スワップ	434,857,771	84,028	84,028
	金利スワップション	8,237,708	19,422	19,422
	キャップ	45,458,961	△13,767	△13,767
	フロアー	6,222,614	△1,335	△1,335
	その他	7,231,835	22,013	22,013
合計			112,433	112,433

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。  
 なお、繰延ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

(2) 通貨関連取引

(単位: 百万円)

区分	種類	平成19年9月末		
		契約額等	時価	評価損益
店頭	通貨スワップ	22,172,586	43,571	106,074
	通貨スワップション	1,571,635	9,699	9,699
	為替予約	58,249,263	△131,622	△131,622
	通貨オプション	11,459,954	△48,197	△48,197
合計			△126,549	△64,046

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。  
 なお、繰延ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引及び外貨建金銭債権債務等に付されたもので当該外貨建金銭債権債務等の中間連結貸借対照表表示に反映されているもの、又は当該外貨建金銭債権債務等が連結手続上消去されたものについては、上記記載から除いております。

(3) 株式関連取引

(単位: 百万円)

区分	種類	平成19年9月末		
		契約額等	時価	評価損益
取引所	株式指数先物	164,235	△2,024	△2,024
店頭	有価証券店頭オプション	517,185	0	0
合計			△2,024	△2,024

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。  
 なお、繰延ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

(4) 債券関連取引

(単位: 百万円)

区分	種類	平成19年9月末		
		契約額等	時価	評価損益
取引所	債券先物	3,717,113	7	7
	債券先物オプション	10,000	27	27
店頭	債券先渡契約	69,716	1,731	1,731
合計			1,766	1,766

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。  
 なお、繰延ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

(5) 商品関連取引

(単位: 百万円)

区分	種類	平成19年9月末		
		契約額等	時価	評価損益
取引所	商品先物	430	43	43
店頭	商品スワップ	556,848	83,587	83,587
	商品オプション	49,973	5,147	5,147
合計			88,777	88,777

(注) 1. 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。  
 なお、繰延ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。  
 2. 商品は燃料及び金属等に係るものであります。

(6) クレジットデリバティブ取引

(単位: 百万円)

区分	種類	平成19年9月末		
		契約額等	時価	評価損益
店頭	クレジット・デフォルト・オプション	3,294,459	1,257	1,257
	その他	85	0	0
合計			1,257	1,257

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間連結損益計算書に計上しております。  
 なお、繰延ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

## セグメント情報

### (1) 事業の種類別セグメント情報

平成20年度中間期 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)

(単位: 百万円)

	平成20年度中間期					
	銀行業	リース業	その他事業	計	消去又は全社	連結
I 経常収益						
(1) 外部顧客に対する経常収益	1,426,233	173,984	216,890	1,817,108	—	1,817,108
(2) セグメント間の内部経常収益	29,757	2,767	148,535	181,060	(181,060)	—
計	1,455,990	176,752	365,425	1,998,168	(181,060)	1,817,108
経常費用	1,312,538	154,398	306,324	1,773,261	(147,115)	1,626,145
経常利益	143,451	22,354	59,101	224,907	(33,944)	190,962
II 資産	106,057,527	2,974,749	7,052,507	116,084,784	(5,051,023)	111,033,760

- (注) 1. 事業区分は内部管理上採用している区分によっております。また、一般企業の売上高及び営業利益に代えて、それぞれ経常収益及び経常利益を記載しております。
2. 各事業の主な内容
- (1) 銀行業……………銀行業
- (2) リース業……………リース業
- (3) その他事業……………証券、クレジットカード、投融資、融資、ベンチャーキャピタル、システム開発・情報処理業
3. 中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更に記載のとおり、所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号 平成19年3月30日)及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号 平成19年3月30日)が平成20年4月1日以後開始する連結会計年度から適用されることになったことに伴い、当中間連結会計期間から同会計基準及び適用指針を適用しております。この結果、従来の方法によった場合に比べ、「経常収益」は「リース業」について358,727百万円減少し、「経常費用」は「銀行業」について6百万円、「リース業」について359,345百万円それぞれ減少し、「その他事業」について0百万円増加しております。

平成19年度中間期 (自平成19年4月1日 至平成19年9月30日)

(単位: 百万円)

	平成19年度中間期					
	銀行業	リース業	その他事業	計	消去又は全社	連結
I 経常収益						
(1) 外部顧客に対する経常収益	1,452,779	409,593	215,180	2,077,552	—	2,077,552
(2) セグメント間の内部経常収益	26,932	10,133	125,849	162,915	(162,915)	—
計	1,479,711	419,727	341,029	2,240,468	(162,915)	2,077,552
経常費用	1,215,669	401,701	252,145	1,869,516	(145,202)	1,724,314
経常利益	264,042	18,025	88,883	370,951	(17,713)	353,237
II 資産	101,270,420	2,245,608	7,214,856	110,730,885	(4,803,256)	105,927,629

- (注) 1. 事業区分は内部管理上採用している区分によっております。また、一般企業の売上高及び営業利益に代えて、それぞれ経常収益及び経常利益を記載しております。
2. 各事業の主な内容
- (1) 銀行業……………銀行業
- (2) リース業……………リース業
- (3) その他事業……………証券、クレジットカード、投融資、融資、ベンチャーキャピタル、システム開発・情報処理業
3. 役員退職慰労金は、従来は支出時に費用処理しておりましたが、前連結会計年度の下期において役員退職慰労引当金を計上する方法に変更しました。そのため、前中間連結会計期間に変更後の方法によった場合に比べ、「経常利益」は「銀行業」について4,556百万円、「リース業」について188百万円、「その他事業」について1,496百万円それぞれ多く計上されております。
4. 負債計上を中止した預金の預金者への払戻については、従来は払戻時に損失処理しておりましたが、「租税特別措置法上の準備金及び特別法上の引当金又は準備金並びに役員退職慰労引当金等に関する監査上の取扱い」(日本公認会計士協会 監査・保証実務委員会報告第42号)が平成19年4月13日付で公表されたことを踏まえ、当中間連結会計期間より過去の払戻実績に基づく将来の払戻損失見込額を引当てる方法に変更しております。この結果、従来の方法によった場合に比べ、「経常利益」は「銀行業」について11,716百万円減少しております。

## (2) 所在地別セグメント情報

平成 20 年度中間期 (自 平成 20 年 4 月 1 日 至 平成 20 年 9 月 30 日)

(単位: 百万円)

	平成 20 年度中間期						
	日本	米州	欧州・中近東	アジア・オセアニア	計	消去又は全社	連結
経常収益							
(1) 外部顧客に対する経常収益	1,453,386	120,897	132,713	110,111	1,817,108	—	1,817,108
(2) セグメント間の内部経常収益	63,688	43,385	3,820	14,111	125,006	(125,006)	—
計	1,517,075	164,283	136,533	124,223	1,942,115	(125,006)	1,817,108
経常費用	1,345,952	146,968	137,725	106,754	1,737,401	(111,255)	1,626,145
経常利益 (△は経常損失)	171,122	17,314	△ 1,192	17,468	204,714	(13,751)	190,962

(注) 1. 当社及び連結子会社について、地理的近接度、経済活動の類似性、事業活動の相互関連性等を考慮して国内と国又は地域ごとに区分の上、一般企業の売上高及び営業利益に代えて、それぞれ経常収益及び経常利益を記載しております。

2. 「米州」にはアメリカ合衆国、ブラジル連邦共和国、カナダ等が、「欧州・中近東」には英国、ドイツ連邦共和国、フランス共和国等が、「アジア・オセアニア」には中華人民共和国、シンガポール共和国、オーストラリア連邦等が属しております。

3. 中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更に関する記載のとおり、所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第 13 号 平成 19 年 3 月 30 日)及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第 16 号 平成 19 年 3 月 30 日)が平成 20 年 4 月 1 日以後開始する連結会計年度から適用されることになったことに伴い、当中間連結会計期間から同会計基準及び適用指針を適用しております。この結果、従来の方法によった場合に比べ、「経常収益」は「日本」について 351,221 百万円減少し、「経常費用」は「日本」について 351,845 百万円減少しております。

平成 19 年度中間期 (自 平成 19 年 4 月 1 日 至 平成 19 年 9 月 30 日)

(単位: 百万円)

	平成 19 年度中間期						
	日本	米州	欧州・中近東	アジア・オセアニア	計	消去又は全社	連結
経常収益							
(1) 外部顧客に対する経常収益	1,695,995	137,724	130,801	113,030	2,077,552	—	2,077,552
(2) セグメント間の内部経常収益	53,655	28,300	7,890	24,455	114,300	(114,300)	—
計	1,749,650	166,025	138,691	137,485	2,191,853	(114,300)	2,077,552
経常費用	1,475,840	128,653	122,810	102,507	1,829,812	(105,498)	1,724,314
経常利益	273,810	37,371	15,880	34,977	362,040	(8,802)	353,237

(注) 1. 当社及び連結子会社について、地理的近接度、経済活動の類似性、事業活動の相互関連性等を考慮して国内と国又は地域ごとに区分の上、一般企業の売上高及び営業利益に代えて、それぞれ経常収益及び経常利益を記載しております。

2. 「米州」にはアメリカ合衆国、ブラジル連邦共和国、カナダ等が、「欧州・中近東」には英国、ドイツ連邦共和国、フランス共和国等が、「アジア・オセアニア」には香港、シンガポール共和国、オーストラリア等が属しております。

3. 役員退職慰労金は、従来は支出時に費用処理しておりましたが、前連結会計年度の下期において役員退職慰労引当金を計上する方法に変更しました。そのため、前中間連結会計期間は変更後の方法によった場合に比べ、「経常利益」は「日本」について 6,241 百万円多く計上されております。

4. 負債計上を中止した預金の預金者への払戻については、従来は払戻時に損失処理しておりましたが、「租税特別措置法上の準備金及び特別法上の引当金又は準備金並びに役員退職慰労引当金等に関する監査上の取扱い」(日本公認会計士協会 監査・保証実務委員会報告第 42 号)が平成 19 年 4 月 13 日付で公表されたことを踏まえ、当中間連結会計期間より過去の払戻実績に基づく将来の払戻損失見込額を引当てる方法に変更しております。この結果、従来の方法によった場合に比べ、「経常利益」は「日本」について 11,716 百万円減少しております。

## (3) 海外経常収益

(単位: 百万円)

	平成 19 年度中間期 自 平成 19 年 4 月 1 日 至 平成 19 年 9 月 30 日	平成 20 年度中間期 自 平成 20 年 4 月 1 日 至 平成 20 年 9 月 30 日
海外経常収益	381,556	363,722
連結経常収益	2,077,552	1,817,108
海外経常収益の連結経常収益に占める割合	18.4%	20.0%

(注) 1. 一般企業の海外売上高に代えて、海外経常収益を記載しております。

2. 海外経常収益は、国内銀行連結子会社の海外店取引、並びに在外連結子会社の取引に係る経常収益(ただし、連結会社間の内部経常収益を除く。)で、こうした膨大な取引を相手先別に区分していないため、国又は地域毎のセグメント情報は記載しておりません。